北海道建築士
HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2019.10.No266
10月号

目次

北海道胆振東部地震から
１年を振り返って……1
特集　平成30年度北海道
赤レンガ建築賞受賞作品……2
まちづくりフォーラム……4
Coffee Break……6
青年・女性の窓……7
［No.93 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会］
information……8

URL　http://www.h-ab.com/

北海道胆振東部地震から1年を振り返って

厚真町社会福祉協議会生活支援担当主幹　山野下　誠

平成30年９月６日、前日の台風が過ぎ去り寝静まった真夜中、午前３時７分。北海道で初めて震度７を観測した北海道胆振東部地震が発生しました。震源に近い北海道電力苫東厚真発電所が被災し全道域が停電となるブラックアウトが発生。地震による土砂崩れが発生し山際の住宅を土砂が押しつぶし、暗闇の中で安否確認や救出が行われました。

町内のほとんどの公共施設や学校は避難所などとなり、一時は町民の４分の１にも相当する1100人以上が避難所生活を強いられるなど、町全体が同時に被災することは、全く想像していない出来事でした。余震が続くなか住民は電気や水道などのライフラインが絶たれ、混乱と不安な状況が続いていました。

自衛隊をはじめ各地の消防や警察、行政、医療など様々な機関のご支援や、駆けつけた多くの災害ボランティア、全国各地から届けられた支援物資、沢山のご支援に心から感謝申し上げます。

今回の震災で厚真町社会福祉協議会は被災された住民の生活復旧を支援する災害ボランティアセンターを立ち上げ、町外からのボランティアや関係団体の支援をコーディネートしました。また、仮設住宅生活が始まった11月からは生活支援相談員を配置し、仮設住宅などに生活の場を移し避難生活を続ける方々の相談支援を担うこととなりました。

それぞれの活動を通じて言えるのは、これらの活動を社会福祉協議会だけでは全うすることは難しく、経験や知識を有する専門機関や民間の力といかに連携していくかが大切だということです。

例えば重機を持ち被災地での活動経験や技術を持つ災害支援の団体は、一般のボランティアでは立ち入ることができないような土砂に埋もれた家屋での支援作業を。司法関係の専門家は被災された方々の様々な手続きの相談支援、動物の支援団体は被災ペットの支援、自動車関係の業者は活動車輌の提供、運送会社は資材の管理など、それぞれの分野の技術や知識を生かした支援を行っていただいていました。それらの力を有効に発揮するため、行政、社会福祉協議会、民間・NPO等の連携を図るための連絡会議や共有会議が１年経った今も定期的に開催されています。

地震災害では被害を受けた建物に関する課題が生じました。発災直後であれば建物の危険度判定はもちろん、応急修理に関する支援、仮設住宅が建設される時期には、それぞれの家の状況に合わせた棚や手摺り、スロープ取付けなどの支援が必要とされました。また、今後の住宅修理、再建についても専門的なアドバイスが求められていきます。

被災された方々の個別の相談はもちろん、被災者支援に携わる私達にとって、課題の整理や自分達だけでは判断できない事案が生じたときに相談できる先の確保は大切であり、建築士の方々と連携することの重要性を感じています。

災害を通じ痛切に感じたことは、ニーズの移り変わりの速さです。現地でその都度判断し対処しなければならないことが生じます。そこで求められるのは現場での柔軟さと機動力、そして活動を安定的に支えていく組織的な仕組みも求められています。

厚真町では北海道建築士会の皆様には、仮設住宅の環境改善として棚の取り付けやスロープによる段差解消などの支援をいただきました。また、５月には青年建築士の集いで、子ども達を対象にしたマイ箸づくりを開催していただきましたが、多くの親子が災害ボランティアセンターを訪れ、楽しい一日を過ごされておりました。久々に間近で見た子ども達の楽しそうな笑顔は忘れられません。

震災から１年が経ちました。復旧から復興へ道のりは長く困難です。震災では多くのものを失いましたが、支援をお寄せいただいた方々とのご縁や励ましなど大切なものも生まれました。これまでのご支援にあらためて心から感謝申し上げます。

平成30年度　北海道赤レンガ建築賞

上士幌町生涯学習センター　わっか

■**建築主**　上士幌町

■**設計者**　㈱アトリエブンク　㈲金箱構造設計事務所　北海道大学 大学院工学研究院 建築計画学研究室

■**施工者**
《萩原・川田・橘内・米倉経常建設共同企業体》
萩原建設工業㈱　川田工業㈱　㈱橘内建設　米倉建設㈲

《奥原・塚田経常建設共同企業体》
㈱奥原商会　㈱塚田設備工業

《スズキ・宮内・大昭経常建設共同企業体》
㈲スズキ電気　㈱宮内電気　大昭電気工業㈱

《ネクサス・森岡建設経常建設共同企業体》
㈱ネクサス　㈱森岡建設

■**建築物の概要**
所在地　河東郡上士幌町上士幌東３線237番地
主要用途　生涯学習センター等
構造及び階数　木造一部ＲＣ造　２階建
建築面積　3,354.01㎡
延べ面積　4,122.16㎡
竣工年月日　平成29年６月27日

□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

「上士幌町生涯学習センターわっか」は、これまで町内に別々にあった５施設（発達支援センター、生涯学習センター、学童保育所、高齢者生きがいセンター、図書館）の機能を複合化した施設です。人口減少と高齢化に直面する上士幌町において、単体としての機能更新・充実だけでなく、統合することで可能となる新しい機能や相乗効果を生むことを重要視し、「世代間コミュニケーションを生む場」「ふらっと立ち寄りたくなる魅力あふれる場」「様々な活動を感じる活気あふれる場」を掲げ計画しています。整備にあたり、中高生、子育て世代、高齢者など、幅広い世代の参加によるワークショップやシンポジウムの開催、策定経過の広報掲載など、構想段階から住民参加を進めました。

□設計の特徴

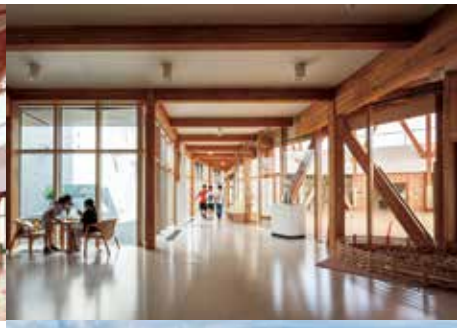
敷地は商店街・公共施設等が隣接し、四周からアクセスが見込める立地です。圧迫感が無く入りやすい平屋を基本とし、既存図書館をＬ型で囲む表裏のないコンパクトなボリュームとしています。４ヶ所のエントランスを結ぶ「プロムナード」は、まちとつながる機能的な動線であると同時に、町民の自由な居場所になります。建物のシンボルとなる円形プレイルームは、吹き抜けの全面ポリカーボネイトパネルから自然光を建物内部に効果的に取り込みます。構造は平屋部分を木造、２階建て部分をＲＣ造とした適材適所の構造計画です。木造部分は地場材であるカラマツの大断面集成材により7.2mグリッドのスパンとし、フレキシブルな平面計画と木の温かみある開放的な空間を実現しています。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

建物のシンボルとなるプレイルームの屋根には、カラマツ集成材の梁が井桁のように巧みに構築され、一般部の柱梁においても見せる構造部材として形成される意匠となっています。その建物の主軸となる大断面カラマツ集成材および、構築木材には、上士幌町産、十勝産の地場産木材にこだわり施工しました。軸組みの接合部には、細部にわたり積極的に金具接合工法を採用したことで、耐力の向上と共に、加工手間の削減、現場作業性の向上で、不足する労務を抑えました。また、施設の設備については、監理者と電気設備・機械設備ルートの検討を重ね、効率良く床下暖房ピット内や小屋裏に配管配線を納めたことで、大きな空間を実現しています。

□完成後の地域への貢献度等

平成29年６月の供用開始以来、お祭り・シンポジウムのイベントなどが行われ、多くの住民に利用されています。役場に寄った後、生涯学習センターで活動や休憩をし、そのまま商店街で買い物をするなどの「はしご利用」や、子ども達の放課後や休日の居場所としての利用なども多く見られるようになりました。子どもからお年寄りまで様々な世代の活動が同居し、ガラスのスクリーン越しにそれぞれの様子が見えることで、自然と世代間交流が生まれるようになりました。町では老朽化が著しい公共施設について住民の意見を交えながら、現在まで再編への事業を進めています。平成30年春には近隣に公共交通結節点となる「上士幌町交通ターミナル」も完成しました。今後も生涯学習センターが、様々な世代の交流の結節点となることを期待します。



審査講評

上士幌町生涯学習センターは、将来のまちづくりや町施設の再配置計画を踏まえたセントラルベルト構想のなかで、分散していた発達支援センター・生涯学習センター・学童保育所・高齢者生きがいセンターの４施設と既存の図書館を統合した複合施設である。

既存の図書館と単に接続させるのではなく、図書館２階の教育委員会と新設の社会福祉協議会等の事務スペースを連続させ、既存図書館をＬ字形に囲んで諸施設を配置し、４面のアプローチを可能にしている。４周を巡るアプローチと出入口をもつ水平の深い庇は雁木空間で、町民の談話や待合スペースとなり、内外から目が届く安全性の高い空間である。４つの出入口につながるプロムナードは、円形のプレイルームを囲み５施設を結び付け、回遊性のある空間である。円形のプレイルームは、地元カラマツ材の大断面集成材の梁を井桁状に組んだ直径18m・高さ８mのシリンダーで、吹き抜け部分のハイサイドライトからは昼光が軟らかく差し込み、夜間は内部照明が周辺に漏れ、光の塔になる。プロムナードに設けられた４つのシリンダー状のトップライトも同じ役割をもつ。内部環境は二重床、アースチューブ、パッシブ換気を用いて計画され、安定した効率的な温熱環境を維持している。

基本構想段階から、町民の幅広い世代の参加によるワークショップ等を開催し、幅広い世代から親しまれる活動の場となり、きめ細やかな施設の企画運営が行われている。非常時には自家発電設備を備えた防災ボランティアセンターの役割もある。交通ターミナルが完成したが、本施設と周辺にある町役場・保健施設・認定こども園・健康増進センター等との関連性は、生涯学習センターを結節点として明らかにされるであろう。

以上の点を踏まえ、「上士幌町生涯学習センターわっか」は、地域社会の発展に貢献する創造豊かな建築であり、建築文化の振興や地域に根ざしたまちづくりに貢献し、意匠的にも優れ、あらたな町民の活動の場を創造した建築であることを評価して平成30年度の北海道赤レンガ建築賞を贈る。また、上士幌町は平成25年度（第26回）の「ひがし大雪自然館」に続き、北海道赤レンガ建築賞を２作品もつことになったが、建築を通したまちづくりを進めている証とも思われる。

北海道赤レンガ建築賞　審査委員長　羽深　久夫

まちづくりフォーラム in えべつ

まちづくり委員長　針ヶ谷　拓　己（札幌支部）

概　　要

私の住むまち！　江別「えべつ」は、ものづくりのまち、子育てしやすいまちと言われ、みんなでつくる未来のまちを目指しています。また「えべつ」は４つの大学のある文京都市でもあり、若者たちが活躍するまちづくり活動が、とっても活発に行われていることから、札幌支部協力のもと、令和元年まちづくりフォーラムinえべつを７月13日に開催する運びとなりました。

今年で９回目となる、まちづくりフォーラムは、江別市の謎解きゲームを体験しながら野幌駅周辺を楽しくまちあるきするとともに、江別市役所や市民団体代表者の方々より、活発で斬新なまちづくりの取組みを学び、パネルディスカッションやワークショップを通して「まちづくりのアカルイ☆ミライ」についてみんなで考えました。なお、開会時には江別市の三好市長に来賓あいさつを頂戴し、江別市の歴史や特色についてもご説明していただきました。

まちあるき

北海道建築士会札幌支部理事で江別市建設部建築住宅課の木谷課長から歴史説明や建物ガイドを伺うとともに、江別市リアル謎解きゲーム「えべチュンクエスト」を体験しながら、再開発の進む「野幌駅周辺」と野幌の歴史が残る「野幌公会堂」や、屯田資料館や錦山神社を含む「錦山緑地」「グリーンモール」などをまちあるきしました。

謎解きゲームによる　まちあるきの様子

まちづくり活動発表

冒頭、清水副委員長より「平成30年まちづくりフォーラムin釧路」の報告があり、その後、４名のパネリストからえべつの斬新なまちづくり活動の発表を伺いました。

以下がその概要です。

【江別市企画政策部政策推進課　　参事　中島 桂一 氏】

えべつ末来戦略では、①協働のまちづくり ②産業活性化 ③住みよいえべつづくり ④魅力発信 を行い、人口減少対策に力を注いでいる。

【community HUB 江別港　　代表　橋本 正彦 氏】

私の役割は「一生懸命、何もしない（自転車を教える親のように）」。若者のやりたいことを実現できるようサポートし、世界に通用する文京都市を目指したい。

【えべつセカンドプロジェクト　代表　山崎 啓太郎 氏】

江別と厚別を合体させた「江厚別町」、ＤＪやゲームイベントをプロデュースし江別の魅力を発信。江別は「便利」「のどか」のいいとこ取りのまち。

【コモンズファン　　代表　林 匡宏 氏】

まちには様々な登場人物がいて、そのエネルギーを絵で可視化することで同じベクトルに向ける…。これがまちづくりにおける私の役割。

パネリストのみなさま（左から林氏・山崎氏・橋本氏・中島氏）

パネルディスカッション

「江別のまちのアカルイ☆ミライ」をテーマとし、山田副委員長がモデレーターを務め、パネルディスカッションが行われました。まちづくり活動がボランティアにならないよう稼げる仕組みが必要との意見や、えべチュンクエストはクイズを掲示しているお店との交流（ロールプレイングゲーム的）がある

とよりおもしろいとの意見、そして建築士(会)へは、空き家の利活用への協力や、まちづくり活動において建築士会とタイアップして新しいチームをつくりたいとの意見がありました。

パネルディスカッションの様子

ワークショップ

「あなたのまちが、10年後、世界中から注目されるアカルイ☆ミライになっていたとしたら、それはどんなまちですか？　そして、その実現のため、あなたは何をしていますか？」をテーマに、５グループに分かれて、アカルイ☆ミライのまちについて、参加者全員で、業界を超え、世代を超えて話し合われました。

ワークショップの様子

最後に、野幌駅周辺のアカルイ☆ミライを描いた、パネリスト林匡宏氏が発表を行いました。グループ内の意見を短時間で可視化していくというファシリテーションがとても斬新であり、これこそが、まちづくりにおける建築士の目指すべき役割なのかもしれません。

「ミライの野幌駅周辺」林匡宏氏

まちづくり委員会紹介

まちづくり委員会は昨年まで６名体制でしたが、建築士会連合会によるまちづくり部会の発足を受け、今年から９名体制で活動を進めています。現在の委員は、北海道庁・札幌市・紋別市の職員をはじめ、地元でまちづくり活動をされている方、設計事務所やゼネコンに勤めるまちづくり好き等が集結し、バランスの取れたチームとなっています。

委員会は年２回ですが、様々な事業があることから、さらに年２回のWEB会議（テレビ会議）も行われます。８月24日(土)に行われたWEB会議では、都合のつけられた委員が北海道中央の「白金温泉」に集まり、「登山＆温泉」をセットにした合宿(笑)も同時開催いたしました。

登山の様子（上富良野岳頂上）

登山＆会議後の一杯

上富良野岳を登山し、ＷＥＢ会議を行った後、ゆっくり温泉でくつろぎ、一杯飲みながら、語り合いました。とっても楽しい、まちづくり委員会です(笑)。

今後も、「まちづくり会議」「まちづくりフォーラム」「景観まちづくり塾」などまちづくりに関わるイベントを企画いたしますので、機会があれば、是非、みなさまご参加ください！

釧路支部　折紙建築による地域活動の報告

事業委員長
下元　英徳

釧路支部では折紙建築を活用し建築士の仕事をいろいろな場所で知っていただく活動をしています。

これまでも、釧路市や総合振興局、釧路町や職業能力開発協会のイベントの中でカッター、定規やペン、色鉛筆を使い遊びながら、きれいに工作を仕上げてもらう活動を継続しています。

近年は建築士のイベントとしての認知度も増しリピーターの親子に楽しみにしてもらったりもしております。

また今年はいつも塗り絵バージョンとして使っている釧路の風景折紙建築の原画を釧路市盆踊り大会の行灯として飾る活動にも参加しました。普段はＡ４版サイズの絵なのですが１Ｍ×２Ｍの模造紙に描きなおし釧路の絵画教室に通う子供たちに釧路の夕焼けや大漁どんぱく祭の３尺玉花火の情景を表現し、建築士とのコラボレーション作品として会場に飾ってもらいました。

建築は建物が完成して作品となりますが、完成プロセスの設計製図そのものも、見る人には美しい作品として映る事もあるようで、私達もただの立面図ですよ！と思っていましたが、建築士のお仕事自体も芸術活動の一つなんだと思わせてもらっております。施主様からは評価を頂けなかった図面達も新たな活躍の場があるかもしれないな！と思っております。

折紙建築の行灯

紋別支部　最近の活動について

青年委員
鈴木　茂人

紋別支部青年部では、「お仕事体験イベント」を11月中旬に開催を予定しており準備を進めているところです。

将来の建築士を担うであろう子ども達に向け、工作などを通じてお仕事を体験してもらい、建築士の魅力を感じてもらうことを目的としております。

今年で３回目となる今回は、雄武町での開催を計画しております。

また、支部の活動として、もんべつ美しいまちづくり推進委員会・紋別市主催の清掃活動や、(一社)紋別青年会議所主催「ミニ氷像・雪像コンテスト」などの地域行事に積極的に参加しております。

昨年からは、紋別商工会議所主催の「ちびっ子ワークフェスinもんべつ」のオシゴト体験コーナーへ出展し、紋別市内の様々な職業・職種の事業所と共に職業体験やコミュニケーションの場の提供を通じて、地域の子どもたちに職業の魅力を発信する活動にも参加しております。

今後も、地域行事などに積極的に参加し、そこで得られた経験などを基に紋別支部ならではの活動へ発展させ、建築士会のＰＲ及び地域貢献活動をしていきたいと考えております。

最後になりますが、今後とも紋別支部をよろしくおねがいいたします。

「ちびっ子ワークフェスinもんべつ」の風景

次代を担うアスファルト防水
無釜型アスファルト防水熱工法　BANKS（バンクス）工法
（一財）日本建築センターの建設技術審査証明書（建築技術）（BCJ−審査証明−175）取得

- 公共建築工事標準仕様　A(I)-1、D(I)-１と同等以上の性能確保
- 基準耐用年数２５年（露出仕様）
- 高耐久・長寿命化によるランニングコスト低減
- 臭い・煙の少ない本格派アスファルト防水
- 専用転圧工具による下地接着性の確保
- 易溶融性アスファルト使用による安定した冬季施工性
- 飛び火認定　高断熱仕様(t=225まで)の対応（DR-1887-2）
- 各種防水下地に対応可能

BANKS（バンクス）工法　30秒動画

東西アスファルト事業協同組合
〒060-0042　札幌市中央区大通西6-2-6　三井生命札幌大通ビル3階　田島ルーフィング(株)内
Ｔｅｌ　011-221-4014　　Ｆａｘ　011-222-3627
技術協力メーカー：TAJIMA　田島ルーフィング株式会社

No 93

HOKKAIDO 建築士会 女性委員会

第29回 全国女性建築士連絡協議会に参加して（７月13日～14日東京）

森田ゆう子（札幌支部）

最初に、三井所連合会会長から女性委員会が近年掲げている「和」を考える取組は、日本を再認識する重要な意味があり、公共的なものと匠の技術の融合が必要との言葉がありました。

各地からの報告として、岩手県からは盛岡市鉈屋町（なたやちょう）の町屋再生と保存について、秋田県からは県内に６作品残る白井晟一の建築調査・保存・活用についての報告がありました。

被災地報告は、札幌支部の小町美穂さんから「胆振東部地震の報告」があり、発生時から被害の全容が判るまでの詳細な経過報告に薄れかけていた恐怖と教訓が蘇ります。また、北海道建築士会作成の防災マニュアル「守ろう命!!」も好評を頂きました。福島県からは、今も４万人の避難者がいる現状とコミュニティの大切さを、岡山県からは西日本豪雨災害の経験から、「ひとごと」ではなく「わがこと」として捉えてもらう啓発活動について報告がありました。

後半は、有限会社原田左官工業所・原田宗亮氏による基調講演があり、同社では女性が10名も職人として活躍している事に驚きました。

翌日の分科会では「高齢社会と住まい」に参加し、岐阜県建築士会の「福祉まちづくり建築士」の活動から建築士として何が出来るかを考えました。

今回初参加でしたが、改めて女性建築士のパワーを感じる２日間でした。参加の機会を下さった皆様、ありがとうございました。

北海道からの参加者

いきものめぐり

佐藤　宜子（網走支部）

道東Ｂブロックでは、例年、建築に関わる活動が多かったのですが、今年は建築と自然の関係を考えるきっかけづくりをテーマに「いきものめぐり」を開催しました。

今回訪問した施設は、網走市の能取湖畔にある「水産科学センター」と、網走市と小清水町にまたがる濤沸湖畔にある「濤沸湖・水鳥湿地センター」の２施設です。

水産科学センターでは、８月10日～12日の３日間、東京農業大学海洋水産学科の特設展示が行われており、アザラシ等海獣の剥製や骨格標本を見たり、クリガニ釣り体験を楽しんだりしてきました。

クリガニ釣り体験は子ども向けのゲームでしたが、大人の私達も楽しめました。また、来館者がホタテの貝殻に絵を描くコーナーがあり、沢山のホタテ貝に描かれた絵やメッセージが展示されていました。

今回特設展示を行っていた東京農業大学海洋水産学科は、オホーツクの海・川・湖沼等を研究フィールドとした動植物や漁業生産の研究等が行われています。これらの研究の材料や成果を身近に感じられるのが水産科学センターですが、参加したメンバーには施設を知らなかった方もおり、知名度はまだまだであることを実感しました。今後も建築と自然の融合の観点から、同施設のＰＲと、更なる地球温暖化対策への意識啓発を図りたいと思いました。

続いて訪れた濤沸湖・水鳥湿地センターでは、世界的にも重要な渡り鳥の生息地としてラムサール条約に登録された濤沸湖の成り立ちや、四季折々の風景のＶＴＲを見せていただいたあと、実際に双眼鏡を貸していただいて、ユリカモメやアオサギなどの野鳥を観察しました。訪問時には確認できませんでしたが、天然記念物のオジロワシやタンチョウも見られるそうです。

双眼鏡の向こうでは、水面をついばんで餌を捕る鳥、湖に潜って餌を捕る鳥等がおり、同じ鳥でも生き方は様々で、大変興味深かったです。

濤沸湖の水鳥を観察

私はこの春に大阪から移住してきました。今回の活動で、自然に囲まれたオホーツク地域の素晴らしさを再確認できたので、次は陸上のいきものも見てみたいなと思いました。

道士会の動き

道本部の主な会議報告（９月）

◆ＢＩＭ推進特別委員会
〈開催日〉９月４日（水）
〈議　題〉１）研究会についての意見交換
　　２）設計におけるＢＩＭ事例紹介

◆第13回全国大会実行委員会
〈開催日〉９月７日（土）
〈議　題〉１）大会実施詳細計画

道本部の主な行事予定（10月）

13日（日）　一級・木造建築士設計製図試験
19日（土）　第２回まちづくり委員会
19日（土）　景観まちづくり塾
26日（土）　第２回被災地応急支援委員会

関係機関等会議参加予定（10月）

23日（水）　建築設備士試験審査会議（東京）
　　高野会長出席

講習会のご案内

監理技術者講習

10月16日（水）　札幌市　　10月24日（木）　旭川市

応急危険度判定士認定講習会

10月30日（水）　札幌市他道内14市町15カ所で開催

防水技術セミナー2019

10月17日（木）　帯広市　　10月30日（水）　函館市
11月22日（金）　旭川市

ＣＰＤ認定プログラム（９月認定）

◆防水技術セミナー2019
《日程及び会場》10月17日（木）　14：00～17：00
　　（帯広市）　他２会場
《単位数》　３単位
《問合せ先》　東西アスファルト事業協同組合

青森建築士会（南黒大会）に参加して

副会長　鈴木　基伸（札幌支部）

今年も高野会長と私は青森県建築士会にお招きいただき、第31回青森県建築士会南黒大会に参加いたしました。７月20日定刻に着陸した青森空港は盛夏の始まりを予告するかのような晴天で、汗ばむ陽気が私達を迎えました。令和最初の第31回大会は南黒支部の主管で、南津軽地方黒石市の津軽伝承工芸館で開催されました。空港からの道程は約１時間、遠望する山々とリンゴ畑の連続でまさに青い森。黒石の古い町並みは江戸時代、弘前藩黒石津軽家の誕生とともに町割りが行われ現在に至る歴史があります。こみせと呼ばれる雁木の連なるこみせ通りは重要伝統的建造物群保存地区に指定され、南黒支部は景観保存と空き家再生を通したまちづくり実践活動を展開しております。大会では青森支部の啓蒙活動と南黒支部のＵＤプロジェクトの活動が報告され、懇親会ではまちおこし支援提案競技の表彰があり、次年度開催の青森支部にバトンタッチされ幕を閉じました。

編集後記

第62回建築士会全国大会が「Ｒｅ＋明日のまちに輝きを－」をテーマに我々が住む北海道は函館市にて９月21日に開催、過去の道央（札幌）、道北（旭川）、道東（帯広）、そして令和初にして４つ目の道南、イカの街函館で盛大に全国大会が終えられとても喜ばしい事と思います。

９月中は例年にない温かい気温で過ごしましたが、10月からは朝晩冷え込む季節になりますので体調管理にはお気をつけて！　　情報委員会　柏倉　晶憲（士別支部）

情報委員会委員長／斎藤　勝哉
副委員長／早川　陽子・森　勝利・前田　繁
委　員／熊谷　智・柏倉　晶憲
村山　賢司・片岡　哲二

北海道建築士　No.266号
印刷　令和元年９月／発行　令和元年10月
編集・発行　一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西５丁目11番地 大五ビル
電話　(011)２５１－６０７６番
URL　http://www.h-ab.com/
印　　刷　株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水２条１丁目
電話　(011)８１１－７１５１番